

江戸時代から近代相撲までの歴史

The history of the SUMO from the Edo era to modern times

1K03A131-1

氏名 達城得琇

指導教員 主査 寒川恒夫 先生 副査 磯繁雄 先生

私は江戸時代から近代相撲までの歴史について、研究した。

私自身、幼少の頃から相撲を行っており、卒業研究の課題として、相撲のことについて研究しようとした。

私はアマチュア相撲出身であり、現在もアマチュア相撲の世界しか知らない身であるため、大相撲の歴史や文化、伝統に非常に興味があった。

現在テレビで大相撲が放送されているが、アマチュア相撲と大相撲とは、歴史の深さも違いその知名度も違う。私自身大相撲のことについては、知らないことが多いのでその歴史について深く知りたかった。

そこで、双葉山の本を読んで双葉山の相撲に関する考えや、思いを知ることができ、とても感動した。そのように、各時代の力士たちが何を考えどのような気持ちで相撲に取り組んでいったのか知りたかった。

歴史を調べるにつれて、力士たちの考えや思いがどのように変化していくのかもわかる。

今では、日本は豊かな国になってきているため、人の考えも移り変わっていくものだが、相撲に対する気持ちが変わっていないということに気づきとてもすばらしいと感じた。

今回卒業研究の内容としては、おもに相撲についての詳しい説明と、土俵についての紹介から始まり、次に大相撲の歴史を江戸時代、明治・大正時代、昭和時代の三つに分けて研究した。

各時代には、今もなお記録に残る有名な力士が多数存在し、彼らの特徴や彼らの名勝負・好勝負を紹介している。

特に昭和に入ってからの大相撲は、テレビ放送が始まったということもあるが、その変動は目覚しく大きく分けて双葉山時代、栃若時代、柏鵬時代、輪湖時代、千代の富士時代に分けられる。双葉山時代は横綱双葉山が69連勝を達成した時代であり、双葉山が独走を続けた時代でもある。栃若時代は、小兵同士の横綱、栃錦と初代若乃花のライバル同士が激戦を繰り広げた時代である。柏鵬時代は剛の横綱柏戸と柔の横綱大鵬が活躍した時代であるが、大鵬の活躍はすさまじく別名大鵬時代とも呼ばれる。輪湖時代は横綱輪島と横綱北の湖が活躍した時代である。輪島は学生横綱から大相撲入りし、横綱にまでなった初の力士で、一方の北の湖は当時最年少横綱ということでもあり、この時代

は人気をあつめた。千代の富士時代は「小さな横綱」千代の富士が活躍した時代である。千代の富士は「ウルフ」とあだ名され当時日本ではウルフフィーバーを巻き起こすほどの人気だった。

その中でも栃若時代は近代相撲が確立された時代として、絶賛されている。

そして、そのような有名力士たちが日本のどこの生まれなのかということについても興味があったので、横綱・大関・関脇の力士がどこの都道府県の生まれなのかということも研究した。結果では、やはり北海道が一番多くの力士たちの出身地であった。大鵬や千代の富士も北海道の出身である。アマチュア相撲では、青森県や石川県が相撲の強豪県であり、青森県出身の有名力士は多数存在したのだが、石川県出身の有名力士は以外にも少ないということに気づいた。

それから、力士にとって切り離せないものが相撲部屋であるが、どのような相撲部屋があり、どこの一門なのかということについても研究した。

相撲部屋にはそれぞれに一門があり、なかでも二所ノ関一門は多くの系統をもつ一門である。

最後に卒業研究の総括に入るのだが、この研究課題を調査して気づいたことを書いた。

今では、大相撲の世界は横綱・朝青龍が独走を続ける時代であり、おそらく朝青龍の活躍は今後も期待できると思う。それによって大相撲の抱える問題として相撲の国際化は常に台頭にあることだが、朝青龍が活躍し朝青龍時代を築き上げれば、その問題も解決への糸口につながっていくと思う。

以上が私の卒業研究の論文である。